

## 平成 28 年 3 月期 第 2 四半期累計期間の業績（連結）について

### （1）売上収益

当第 2 四半期連結累計期間の売上収益は前年同期比 79 億円（12.7%）増の 703 億円となりました。

長期収載品は後発品使用促進策の影響を受けて減少となったものの主要新製品の売上が堅調に推移し、特に抗悪性腫瘍剤「オブジーボ」、関節リウマチ治療剤「オレンシア皮下注」が大幅増となりました。また、ライセンス収入についてもオブジーボの欧米での売上拡大に伴い、当初計画を上回る結果となりました。

主要製品の状況について簡単にご説明します。

「グラクティブ錠」については、年間計画 320 億円に対して、当第 2 四半期の売上が 160 億円と、ほぼ計画線上の結果となりました。

「リカルボン錠」は、競合するビスホスホネート製剤や副甲状腺ホルモン製剤、活性化ビタミン D3 製剤との競合激化はあるものの、潜在市場の掘り起こしにより前年同期比 8 億円増の 57 億円となりました。

「イメンドカプセル/プロイメンド静注用」は、前年同期にあった仮需要の反動もなく、前年同期比 5 億円増の 47 億円となりました。

「リバスタッチパッチ」は、用法・用量の追加もあり、前年同期比 7 億円増の 39 億円となりました。

昨年 5 月に新発売しました 2 型糖尿病治療剤「フォシーガ錠」は、前年同期比 4 億円増の 16 億円となりました。

一昨年 8 月に新発売しました「オレンシア皮下注」は、引き続き堅調に推移し、前年同期比 22 億円増の 37 億円となりました。

「ステープラ」は、潜在市場の掘り起こしに努めた結果、前年同期比 1 億円増の 26 億円となりました。

昨年 9 月に新発売しました「オブジーボ点滴静注」は、堅調に推移し、当初計画を上回る前年同期比 27 億円増の 30 億円となりました。

長期収載品については、後発品使用促進策の影響を受けたものの、末梢循環障害改善剤「オパルモン錠」が前年同期比 8 億円減の 119 億円、気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「オノンカプセル」が 4 億円減の 41 億円、「オノンドライシロップ」が横ばいの 25 億円、慢性膵炎治療剤「フオイパン錠」が 4 億円減の 28 億円、糖尿病性神経障害治療剤「キネダック錠」が 5 億円減の 22 億円となりました。

## (2) 営業利益

営業利益は前年同期比 114 億円 (376.0%) 増の 144 億円となりました。

当上期におきましては、売上高が前年同期比 79 億円増加するとともに、売上原価が前年同期比で 19 億円 (11.1%) 増加し、186 億円となりました。

研究開発費は、オプジーボのがん腫拡大に向けての治験費用が増加しましたが、退職給付制度改定に伴う人件費が減少したことから、前年同期比 6 億円 (2.8%) 減の 191 億円となりました。なお、退職給付制度改定による影響を除いた研究開発費は前年同期比 16 億円増の 213 億円となります。

販売費及び一般管理費については、市販後調査費用などが増加したものの、前年同期に発生した「フォシーガ錠」の新発売に伴う営業活動費が減少するとともに、退職給付制度改定に伴う人件費が減少したため、前年同期比 37 億円 (16.9%) 減少の 182 億円となりました。なお、退職給付制度改定による影響を除いた販売費及び一般管理費は前年同期と横ばいの 219 億円となります。

さらに、その他の収益が前期比横ばいの 3 億円、その他の費用が 11 億円減の 3 億円となりました。

以上のことから、営業利益は前年同期比 114 億円 (376.0%) 増の 144 億円となりました。

## (3) 税引前四半期利益

税引前四半期利益は前年同期比 112 億円 (238.6%) 増の 159 億円となりました。

営業利益が前年同期比 114 億円 (376.0%) 増の 144 億円となり、金融収支が前年同期比 1 億円減の 16 億円となりましたので、税引前四半期利益は前年同期比 112 億円 (238.6%) 増の 159 億円となりました。

## (4) 四半期利益 (親会社所有者帰属分)

四半期利益は、前年同期比 86 億円 (261.9%) 増の 119 億円となりました。

税引前四半期利益の増加にともない、税負担が 26 億円 (197.8%) 増加したことから、当第 2 四半期累計期間における四半期純利益は、前年同期比 86 億円 (261.9%) 増の 119 億円となりました。

## 平成 28 年 3 月期の業績予想（連結）について

これまでの業績状況や、今後の売上収益、経費の発生見込を踏まえ、通期の業績予想を修正いたしました。

### （1）業績予想の修正

売上収益を 1,351 億円から 94 億円上方修正し、1,445 億円  
営業利益を 140 億円から 12 億円上方修正し、152 億円  
税引前当期利益を 165 億円から 13 億円上方修正し、178 億円  
当期利益（親会社所有者帰属分）を 116 億円から 15 億円上方修正し 131 億円に修正  
いたしました。

### （1）売上収益

売上収益は前期比 87 億円（6.4%）増の 1,445 億円を予想しております。

当初1,351億円を予想しておりましたが、長期収載品については後発品使用促進策の影響は引き続き受けるものの、主要新製品、特に「オブジーボ」「オレンシア皮下注」が当初予想を大きく上回る見込みであること、また、欧米における効能追加などに伴うオブジーボのロイヤルティ収入が当初予想を上回ることから、通期見込みを期初の予想（1,351億円（前期比0.5%減）から94億円引き上げ、前期比87億円（6.4%）増の1,445億円を予想しております。

なお、現在の売上動向を踏まえ、フォシーガ錠、オレンシア皮下注、オブジーボ点滴静注の売上予想をそれぞれ見直し、フォシーガ錠を30億円下方修正し45億円、オレンシア皮下注を10億円上方修正し80億円、オブジーボ点滴静注を20億円上方修正し55億円としました。

### （2）営業利益

営業利益は前期比 4 億円（2.7%）増の 152 億円と予想しております。

売上原価は、売上収益が増加するとともに製品構成の変化から原価率が若干上昇したことから、前期比 31 億円（8.7%）増の 382 億円となりました。

研究開発費は、オブジーボの価値最大化に向けての臨床試験の増加に伴い、当初予想を上回る 460 億円（前期比 47 億円増）を見込んでいます。

販売費及び一般管理費についてもオブジーボの効能追加を見据えた費用が増大することから当初予想を上回る 440 億円（前期比 18 億円増）を見込んでいます。

その他の収益が前期比 2 億円増の 6 億円、その他の費用が 9 億円減少し 17 億円を見込んでおり、営業利益は前期比 4 億円（2.7%）増の 152 億円を予想しております。

なお、第1四半期において、退職給付制度改定に伴い人件費が63億円減少しており、この影響額を除いた実質ベースの研究開発費は482億円（前期比69億円増）、販売費及び一般管理費は476億円（前期比54億円）となります。

### （3）税引前利益

税引前利益は前期比5億円（2.8%）減の178億円を予想しております。

営業利益が前期比4億円（2.7%）増の152億円となりましたが、金融収支が前期比9億円減の26億円となることから、税引前利益は前期比5億円（2.8%）減の178億円を予想しております。

### （5）当期利益

当期利益は前期比1億円（1.0%）増の131億円を予想しております。

税引前利益の減少（5億円）により、法人税等の税金費用が前期比6億円減少することから、当期利益は前期比1億円（1.0%）増の131億円を予想しております。

なお、今年度の中間配当金は1株当たり90円とさせていただきます。  
また、期末配当金についても、目下のところ、1株当たり90円とさせていただく予定です。